

よしなが あみ
吉永 亜海 先生

令和6年度採用



ー教員を目指したきっかけは何ですか。

学生時代、子どもたちにダンスを教えてあげるといふ機会がありました。その時、子どもたちと関わることや何かを教えるということがとても楽しいと感じました。また、教えるという経験を通して自分も成長することができたことから、教員になりたいと思うようになりました。

ー教員になる前と実際になった後で、（教員に対する）印象の違いなどはありますか。

教員になる前は、自分一人で学級担任や毎日の授業づくりができるのかと不安な気持ちがありました。実際に今の学校に赴任してみると、どの先生も温かくて話しやすく、学年問わず相談しやすい環境でした。学校の教員は「一人」ではなく、分からないことや授業づくりなどなんでも相談できる「仲間」がいるチームなのだと分かり、安心して働くことができました。また、子どもたちの「わかった!」「まだやりたい!」という声が聞こえてきた時には、「頑張ってよかった」と思います。子どもたちの成長を近くで見ることができるのは、教員として何よりの喜びです。

小学校教諭

ー教員になって、一番困ったのはどんな時でしたか。その時、どう乗り越えましたか。

一番困ったのは、学級が思うようにまとまらなかった時です。その時、もっとこどもたちのことを知ろうと努力したり、学年の先生や校長先生に相談をしたりしました。相談をすると気持ちが楽になったし、こどもがもっている思いを想像してみると、明るい自分であることができました。こどもたちは、お互いに助け合い、学び合います。そのことを理解したうえで、その瞬間のこどもの気持ちや思いを想像し、寄り添いながら指導をすることを心がけると、少しずつ学級の様子が変わっていきました。この経験を通して、大人の思いとこどもの思いにはズレがあることを理解して、こどもの思いをできる限り想像することが大切であると学びました。

ー教員を目指す方へメッセージをお願いします。

教員は、毎日子どもたちからパワーをもらい、共に成長していくことができる本当にやりがいのある仕事です。困ったときには、助け合える心強い仲間の先生方もいます。ぜひ、子どもたちの成長を共にサポートしていきましょう!



えのくま なおこ
荏隈 直子 教諭

平成22年度採用



ー教員を目指したきっかけは何ですか。

小学生の頃、家で夕飯を食べているときに、小学校の教員をしていた母が話してくれる仕事での出来事、そして話をする母の姿がとても楽しそうで、教員という仕事に興味をもちました。高校に入ると、友人に数学を教えることがあり、「分かってくれるって嬉しい」と感じたことから、教育学部のある大学を目指すようになりました。

ー教員になって、一番困ったのはどんな時でしたか。その時、どう乗り越えましたか。

教員になって一番困ったのは、やはり1年目です。大学を卒業して右も左も分からないまま、初任校で1年生の担任になり、教科の授業だけでなく道徳や学活などの指導もしなければならず、何もかもが初めてで、毎日が不安でした。ですが、保護者に電話連絡をする前には、先輩の先生が職員室で事前にロールプレイをしてくださったり、生徒指導の際には生徒指導主事の先生が表に立ち、対応の仕方を示してくださったりと、同じ学年の先生をはじめ、多くの先生がさまざまな面でサポートしてくれました。人と関わる仕事だからこそ、1人で抱え込まず、みんなで協力することの大切さを教わりました。

中学校教諭

ー教員を目指す方へのメッセージをお願いします。

私は教員という仕事が好きです。大変なことも失敗したこともたくさんありますが、それに勝るやりがいがあります。授業で生徒が意欲的に取り組む姿を見たとき、数学が苦手な生徒が問題を解けるようになったときなど、日々さまざまな場面で生徒の頑張りが見られると私自身も嬉しくなります。

教員になって15年目になりますが、まだまだ自分1人ではできないこともたくさんあり、周りの先生方に相談する毎日です。教員という仕事への不安を抱えている方もいると思いますが、他の先生方のやり方をマネすることから始め、分からないことは周りにしっかり頼ることで少しずつ自分の働き方が見えてきます。

家に帰ると3児の母として、家事に子どもの宿題のチェック、翌日の保育園の準備など目の回るような忙しさですが、それでも毎日充実した日々を過ごしています。中学校3年間で心も体も大きく成長することも達を見守ることができる教員という仕事は、とても素敵な仕事だと思います。近い将来、みなさんと一緒に働くことができることを楽しみにしています。



かとう はる き
加藤 悠希 先生

令和6年度採用



－教員を目指したきっかけはなんですか。

高校生の時、サッカー部に所属していたのですが、3年次に前十字靱帯を損傷し、スポーツを「する」側から「支える」側に変わりました。キャプテンを任されていたこともあり、ケガをしている間、監督やコーチとの関わりもより大きくなる中で、指導者の姿に憧れを抱くようになりました。ケガをきっかけとして、スポーツの多様な楽しみ方を感じることができたので、この魅力をたくさんの人に感じてもらいたいという気持ちから体育教員を目指すようになりました。

また、スポーツは世代や国境を越えて楽しむことができ、平和につながるきっかけになるものだと思います。スポーツと平和についてこども達と一緒に考え、平和につながるメッセージを広島市の学校から発信していきたいです。

－教員になる前と実際になった後で、（教員に対する）印象の違いなどはありますか。

良い意味で、なる前となった後での印象の違いは全くないです。魅力的な仕事だと思い教員を志し、実際に教員になってからも印象は変わらず、生徒の成長を近くで感じることのできるとても魅力的でやりがいのある仕事だと感じています。

高等学校教諭

－勤務している学校の「魅力」や「自慢できるところ」について教えてください。

積極的な探究学習が舟入高校の魅力だと思います。様々な分野でおもしろい、ワクワクするような探究をしているグループがたくさんありますが、特に「平和」について探究を進めているグループは、地球規模の問題を解決していくために、自分たちにできることを常に考えています。

－教員になって、一番困ったのはどんな時でしたか。その時、どう乗り越えましたか。

正直なところ、1年目を振り返ったときに、とても困ったなということはあまりなかったように感じています。私自身、困ることが無いように、常に見通しをもち、事前の準備をしっかりとすることを心がけてきました。もちろん、これから先、担任をもったり校内での役割が変わったりする中で困ることは出てくると思います。ただ、舟入高校は本当に素敵な学校で、生徒や先生方にとても恵まれているので、きっと乗り越えていけると 생각합니다。

－教員を目指す方へメッセージをお願いします。

教員は、やりがいを感じることでできるとても魅力的な仕事です。日々、自己研鑽に努めることで自分の能力が高まるだけでなく、生徒にも良い影響を与えることができます。今悩んでいる人も、ぜひ先生になってほしいと思います。



えがわ かいせい
江川 魁星 先生

令和3年度採用



ー教員を目指したきっかけは何ですか。

中学生の時に出会った担任の先生に憧れて教員を目指すようになりました。高校、大学と進学してからは理科の先生を目指して学生生活を送っていましたが、介護等体験で実習をした時に特別支援教育の世界を知りました。そこで出会った先生方が、とても丁寧に児童や生徒たちに接している姿を見て、「自分も特別支援学校で働きたい」と思うようになりました。

ー教員になる前と実際になった後で、(教員に対する)印象の違いなどありますか。

学生の頃は、教員の仕事は日々授業や教材を考え、自分が担任している生徒のことだけを考えて働いているイメージでした。実際に教員として働きはじめてみると、そのイメージが違ったわけではありませんが、それ以外にも校務分掌や保護者対応、生徒指導や進路指導などがあり、「教員にはこんな仕事もあるのか」と今でも新たに知ることがあります。自分で考えることも大切ですが、一人で解決できないこともあるので、先輩の先生にやり方を聞いて対応するようにしています。

特別支援学校教諭

ー教員になって、一番困ったのはどんな時でしたか。その時、どう乗り越えましたか。

教員になって一番大変だったことは、2年目の時に取り組んだ公開授業研究会での公開授業です。当時は、肢体不自由の生徒が在籍する学級の担任をしており、2年目ということもあってなんとか次の日の準備を終わらせて退勤する、という日々が続いていました。そんな中で取り組んだ公開授業では、学習指導案作成や教材研究などまだ不慣れな中で進めていくことに悩んでいました。そんなある日、自分では気づかないうちに、とても暗い表情をしていたようで、先輩の先生が心配して声を掛けてくださり、色々話を聞いてもらいました。

その日を境に、同じ学年や学級の先生はもちろん、学年などを超えて色々な先生に授業について相談できるようになり、たくさんの先輩にアドバイスをもらうことで、公開授業を無事終えることができました。一人で悩んで前に進まない状態は、自分にとっても生徒たちにとっても良い影響を与えないということを学ぶとともに、自分自身も、いつかは悩んでいる後輩に声を掛けてあげられるような先輩教員になれるよう、あれから日々努めています。





ー教員を目指したきっかけは何ですか。

小さい時から看護師などの医療関係の仕事には興味があったのですが、中学生の時に、養護教諭が部活動の顧問になったことが大きなきっかけになったと思います。養護教諭の仕事について色々と話を聞いたり、養護教諭の仕事をする様子を間近で見たりしているうちに、養護教諭を目指すようになりました。

ーいま勤務している学校の「魅力」「自慢ポイント」を教えてください。

子ども達はとても素直で人懐っこく、学校内だけでなく地域の人たちにも元気なあいさつができます。何か役割をお願いしたときには快く引き受けてくれて、頼りになる子どもたちです。

また、職員室が和気あいあいとしているところも自慢のポイントだと思います。養護教諭は一人職ですが、色んな先生と関わりながら仕事をすることが多いです。どの先生も相談しやすく、サポートしていただけるのでとても助かっています。

養護教諭

ー養護教諭になる前と実際になった後で、（養護教諭に対する）印象の違いなどありますか。

保健室で子ども達の対応をするのはもちろんですが、その後の担任や管理職への報告・情報共有、保護者への連絡など大人同士での関わりがとても多いのだなと思いました。また、書類の作成、スポーツ振興センターの手続きなど、パソコンでの事務仕事が多いことにも驚きました。

ー教師になって、一番困ったのはどんな時でしたか。その時、どう乗り越えましたか。

新型コロナウイルス感染症が流行したときです。特にはじめの頃は、情報が常に変わる中で何が正しいのかわからないまま感染症対策を行う必要があり、新しい生活様式に対応していくことも大変でした。

そんな時、同期や近隣校の養護教諭と情報共有できたことは心強かったです。感染症対策の方法や行事を実施する際の対応を共有し合えたことで乗り越えることができました。情報があふれる中で、養護教諭の専門性を生かしながら情報を取捨選択し、教職員や子どもたちに正しい情報を周知していくことがとても重要であることを学びました。

